

5/17 朝日

金網張られた遊び場



基地はなぜ動かないのか

(沖縄県宜野湾市)の光景だ。1950年代後半、飛行場の周囲に、今のような金網はなかった。

「出入りは自由にしていた。学校帰りに集まる『遊び場』で、戦闘機は見たことがなかった」と今も近くで暮らす仲村さんは言う。市の記録ではフェンス設置開始は62年。ただ、その後も、高校の頃までの仲村さんの記憶に激しい騒音はうつづけの場所だった。仲村隆さん(71)が小学校の頃の、米軍普天間飛行場

に介入し沖縄が出撃拠点となっていた68年、米国防総省内で浮上したのは、沖縄の海兵隊撤退構想だった。

〈海兵隊の航空機は到着

に数日かかる〉(海兵隊よりも空軍の訓練や装備が適している)。朝鮮半島有事を前提に、日本本土と沖縄の基地再編について内部文書がそう記す。東京工業大の川名晋史准教授が入手したものだ。ここに、普天間閉鎖案も含まれた。

米国の財政事情が背景に

あった。ただ、軍部の反対で構想は頓挫。日本本土の基地の整理縮小が優先されることになる。

日米が沖縄返還で合意し

た69年11月、ベトナムを引き揚げたヘリ部隊が普天間へ。普天間は、強化の道を歩み始める。(園吉美香)

基地返還といふ名の県内移設

ヘリ部隊・格納庫移転先は普天間



基地はなぜ動かないのか

1面から続く

月、最初の日米合意が交わされた。普天間飛行場は同じく普天間飛行場で、あわせると普天間飛行場とほぼ同じ広さの480・4ha。たがずべて県内移設が完了次第といふ条件付だった。同じく普天間では普天間飛行場で、普天間の約五つ分の広さにあたる基地返還を決定する。しかしも、38カ所のうち半数近くに県内移設の条件が付いた。慶應義塾大学の音楽が1月31日付朝日新聞に載る。「無条件返還

た(関東計画)。6基地の機能は東京・横田基地へ。その機械の戦闘機部隊は復帰直前、沖縄に移転した。74年、日米は再び沖縄の基地返還を決定する。しかしも、38カ所のうち半数近くに県内移設の条件が付いた。慶應義塾大学の音楽が1月31日付朝日新聞に載る。「無条件返還

た普天間は74年、滑走路が補強される。返還される「那覇空港」の対潜哨戒機を嘉手納基地へ。それに伴い、補助飛行場としての機能を普天間へ。それが復帰後初めて合意した那覇

1974年
那覇空港返還の条件とされた嘉手納への部隊移転に伴い、嘉手納の「ハンビー飛行場」として滑走路を整備
2022年
現在

主な受け入れ先
① 楠谷補助飛行場 → 伊江島補助飛行場
② 那覇空港 → 嘉手納基地
③ ギンバル訓練場 → ブルービーチ訓練場
④ 北部訓練場(過半) → 北部訓練場(残る区域)

現在の基地
■返還された基地
■返還予定の基地

主な受け入れ先
① 楠谷補助飛行場 → 伊江島補助飛行場
② 那覇空港 → 嘉手納基地
③ ギンバル訓練場 → ブルービーチ訓練場
④ 北部訓練場(過半) → 北部訓練場(残る区域)

主な受け入れ先
① 楠谷補助飛行場 → 伊江島補助飛行場
② 那覇空港 → 嘉手納基地
③ ギンバル訓練場 → ブルービーチ訓練場
④ 北部訓練場(過半) → 北部訓練場(残る区域)

空港返還の条件だった。
あれど普天間は10年代後半、2022年北にあった「ハンビー飛行場」の返還

負担軽減のはずが「外来機」急増

日米合意は沖縄のガス抜き

増やした。一日の客機を超えてパンクしたため。(23時過ぎたので)子供たちが何回も何回も起きてい(往んで)20年だが、「」

昨年度に寄せられた声は51件だった。96年の普天間返還合意の条件とは、本土への部隊移転も含めた。2014年、73機といわれる普天間の常駐機のうち、空中給油機15機が山口県の岩国基地に移転された。負担軽減策として融資されているものだ。12、13年には田代(くじろ)に代わって大型輸送機オスプレイ24機が、県議会全会派や県内各市町村の首長が反対するなか配備された。これも訓練の一環を北

海道やグアムに移転し、飛行機が何回も何回も起きてい(往んで)20年だが、「」

4~5年が特にひどい(感覚)。強しよどもこの感覚で、

度の4~5回か(飛行機)、21年度は344回で過去最多を記録した。中国の台頭を背景に、訓練を活発化させているともいわれる。

夜間早朝の飛行制限、飛行路の見直し、警戒構

吉田勝(よしむら)は語り、「日米の合意は沖縄のガス抜き」。返還する要因を入れ側が理解し世の中が忘れる

のを待つのを繰り返していくようになると、政府は認明する。

データは次の結果を示す。17年度に始めた国調査によると、普天間で、常駐機以外に国外や県外から飛

度の4~5回か(飛行機)、21年度は344回で過去最多を記録した。中国の台頭を背景に、訓練を活発化させているともいわれる。

夜間早朝の飛行制限、飛行路の見直し、警戒構

など)が起きれば、日米は「負担軽減」として新たな合意を重ねるが、住民に実感はない。

住民に困られる米軍普天間飛行場
行場は2021年12月3日
沖縄県宜野湾市、本社機場

に伴い、ヘリ部隊や格納庫の移転となりた。普天間

を発表した。「沖縄の歴史は現在のようだ離島の激しい基地となつていて世界危険」といわれる普天間は、沖縄のなかで基

地や部隊が移転を重ねる県内移設の産物」ともいえた。96年4月、橋本龍太郎首相は記者会見で「普天間の

内移設が大きな目的にあり、要求にほど遠い」

一方、ベトナム戦争中に米国内で開墾まで浮上し

る問題を抱じるなか、県連合が最終先。業務を通じて示されたのが再び、県の実感だった。

全国ニュースが大々的に報じるなか、県連合が最終先。業務を通じて示されたのが再び、県の実感だった。

高田朝光さん(65)には違う景色が見えていた。条件ごとに内移設を経験した

返還合意を報じるなか、県連合が最終先。業務を通じて示されたのが再び、県の実感だった。

96年4月、橋本龍太郎首相は記者会見で「普天間の

内移設が大きな目的にあり、要求にほど遠い」

一方、ベトナム戦争中に米国内で開墾まで浮上し

る問題を抱じるなか、県連合が最終先。業務を通じて示されたのが再び、県の実感だった。

全国ニュースが大々的に報じるなか、県連合が最終先。業務を通じて示されたのが再び、県の実感だった。

高田朝光さん(65)には違う景色が見えていた。条件ごとに内移設を経験した

返還合意を報じるなか、県連合が最終先。業務を通じて示されたのが再び、県の実感だった。

高田朝光さん(65)には違う景色が見えていた。条件ごとに内移設を経験した

返還合意を報じるなか、県連合が最終先。業務を通じて示されたのが再び、県の実感だった。